

エントリーシート対策といつても、「結論から書く」や「箇条書きにする」といった表現テクニックはいわば枝葉。まず押さえるべきは、幹となり土台となる考え方です。

土台がしっかりと形作られていなければ、いかに華々しい体験をもとに名文を綴ろうとも読み手の心には届きません。このページでは、エントリーシートを書く前に

知つてほしい考え方をお伝えします。

1 書く目的を意識する

まず意識してほしいのはエントリーシートを書く目的です。エントリーシートを書く目的は「サークルやアルバイト経験の自慢」や「漫然とした自己紹介」を書くことではありません。その目的は「自分がどれほど志望企業に適しているか(適性および能力面において)」を伝えることに他ならず、常にこれを意識することを忘れないでください。目的を理解しているかどうかで、自己紹介の文章を書く際に取捨選択すべき情報は大きく変わります。

3 設問に答える

求めているかを知つてください。よく調べれば、求める人材(素養)のパターンは業界や職種によって一定の傾向があるということに気づくはずです。最終的には、志望企業が求める人材像を十分理解し、最適と考えられるあなたの特徴をPRできればベストです。

2 企業を知る

とはいって、「自分の個性や魅力といつても、どんな情報を書いていいのか分からない」という方もいるでしょう。それなら、社会や企業がどんな人材を

魅力的な エントリーシートを 書く10のルール



設問の真意を考える

「できそうか」といったところにまで疑問符が付きますのでご注意を。

すべての設問には必ず意図があります。たとえ、突拍子のない設問だつたとしても、「適応力や思考の柔軟性を見せる」といった目的があるはずです。「研究テーマを教えてください」という設問一つにしても、採用担当者が知りたい情報を想像すると「詳細な研究内容」「研究に対する姿勢」「専門的な情報を分かりやすく説明できるか」などが挙げられるでしょう。設問の一言一句を見逃さず、企業・採用担当者の意図をしっかりと見極めてください。望まれない回答は、いかに名文であっても評価にはつながりません。

エピソードに頼らない

読み手にあなたの魅力を伝えるのは難しいでしょう。逆にエピソードがありたりでも、そこから書き手の魅力が十分伝わってくるエントリーシートもあります。

1 でお伝えしたように、エントリー

す。たとえ、突拍子のない設問だつたとしても、「適応力や思考の柔軟性を見せる」という目的があるはずです。「研究テーマを教えてください」という設問一つにしても、採用担当者が知りたい情報を想像すると「詳細な研究内容」「研究に対する姿勢」「専門的な情報を

分かりやすく説明できるか」などが挙げられるでしょう。設問の一言一句を見逃さず、企業・採用担当者の意図をしっかりと見極めてください。望まれない回答は、いかに名文であっても評価にはつながりません。思い入れにとらわれず、目的を達するために最適な素材（エピソード）を選んでください。

誤字脱字、日本語表現の誤りは厳禁

「たった一つの誤字が合否を分ける」というのは、決して言い過ぎではありません。どれほど内容が良いエントリーシートでも、たった一つの誤字であなたの「仕事における正確性」や「志望企業への熱意」まで疑われかねません。エントリーシートを書き終えた後一息ついて、もう一度しっかりと見直しをしましょう。

7 嘘、大げさ、紛らわしいはNG

サークルやアルバイト、海外留学の体験談を漫然と書いたとしても、飛びぬけて優秀なエピソードでない限り、

いい情報収集や理論武装しても、実践で完璧なエントリーシートをいきなり仕上げられる人は、まずいません。何枚も書き、見直しをすることでエントリーシートはより洗練されていきます。

場数を踏む

もちろん、第三者に読んでもらうことも効果的なので、可能な限りそういう機会を作つてみてください。

good
luck!

ではあります。そういった嘘は多くの場合直接で見抜かれますし、万が一入社できたとしても、会社に入つてからも偽りの自分を演じ続けるのは至難の業です。また、その嘘が採用を左右する重要な要素だった場合、判明すれば採用取り消しの理由になります。

では、まだ一枚もエントリーシートを書いたことがなければ「まだ自己分析や企業研究が十分じゃないから…」などとをお勧めします。自分に何が足りないのか理解したほうが、「ゴールは近くなるはずです。

第三者的視点で読み返す

8 第三者的視点で読み返す

文章を書く際、客観的視点は大切です。エントリーシートの場合も読み手の立場になつて、自分の書いた文章を読み返してみてください。「本当にこの書き方で、自分の伝えたいことが伝わっているのか」「自分で是当たりとまつていなければ、会社選びの根拠はやや心もとないものとなります。将来

像が明確であればあるほど、会社選びの根拠は強いものとなり、志望動機についていないか」自分の固定観念をできる限り取り払つてチェックしてください。もちろん、第三者に読んでもらうことでも厚みが出てくるはずです。「どの会社で働きたいか」を考える前に、「どんな将来を描きたいか」を考えてみてください。

10 自分の将来を真剣に考える

10 自分の将来を真剣に考える

